

はにい きって、ひねって、つなげると 平成27年11月9日

元気な2年生の子どもたちが、時間よりずっと早くホールに集まってきました。今日の授業は紙パックや紙コップを切り開いて、ひねったり、ホチキスでつないだりして、形を変えて活動していくというものです。

「ねじってキュッ。」、「ホチキスでカチッ。」先生が、子どもたちの中でやって見せます。「何に見える？」先生の声かけに、「だんだんブランコに見えてきた。」



目の前の揺れているものと、これまでの経験が、すぐに一つにつながっていきます。「素敵に変身させたいね。」先生が言います。

次に先生は、パックの表面と、裏面の白い方を見せて、色の組み合わせにも目を向けさせます。

「いろいろな色があった方がきれい。」子どもたちの目が輝きます。「やってみたい！」

子どもたちが作業を始めると、だんだん話し合いの音が聞こえてきます。「違う色を重ねてみたよ。」「動くようにしてみたの。」みんなの工夫が声になり、それを聞いた子がまねをしながら、更に工夫をしていきます。



「できた人は飾ってみてね。」

ホールには、スズランテープにつるした洗濯バサミが準備されています。

「どこを留めてつるすか考えて。」先生の声でみんなが工夫を始めます。

「ジェットコースター。」
「ワニ~。」「くもの巣~。」
みんなが、自分の作ったものに名前をつけはじめました。

自分と材料、先生、友達、そして場所との関わりで、表現がひろがり、喜びにつながっていきます。

『はにい』はコミュニケーションツールです。 みんなで語り合いましょう。
ご意見・ご感想は inochi4027@pref.kanagawa.jp